

第6次総合計画策定が進んでいます

豊前市では、昨年度より市の最上位計画である総合計画の策定を行っています。昨年度は、3,000人の市民のみなさまを対象としたアンケート調査や、青豊高校の2年生を対象としたアンケート調査、また、豊前市を訪れた方を対象とした豊前市の地域資源等に対する認知度・来訪意向調査などを行いました。

今年度より、本格的に策定作業を進めてまいります。そこで、総合計画について広く市民のみなさまに知っていただくために、今回、「豊前市総合計画ニュース」を発行することにしました。今回は、昨年度実施した各種調査結果について、その結果の概要をお知らせします。

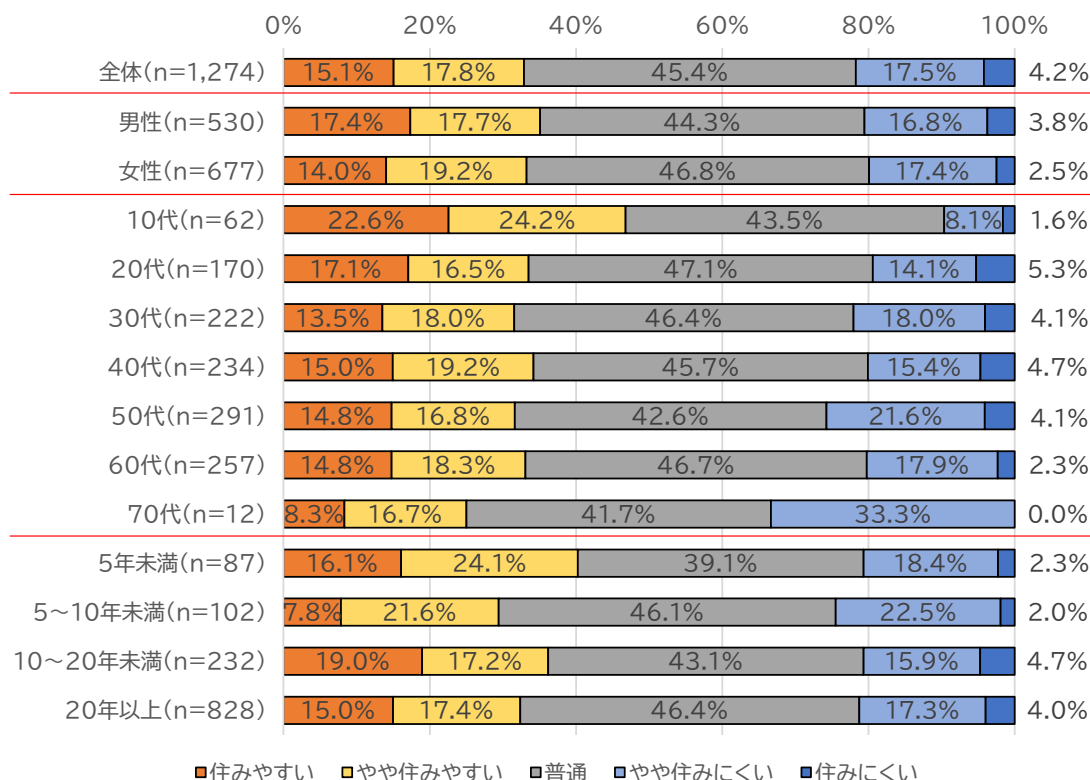
市民意識調査結果の概要

豊前市に住みやすい、愛着や親しみを感じている人は多い

昨年10月に実施した市民アンケート調査の結果をみると、性別、年代別問わず、「住みやすい」や「愛着や親しみを感じる」という人が多い結果でした。

居住歴でみると、「5～10年未満」では、若干、住みやすさや、愛着、親しみを感じている人の割合が低くなっています。年代別の居住歴をみると「5～10年未満」は、30代、40代の割合が高いことから、豊前市外から移り住んだ方が多いと推測され、従前の居住地と比べた場合に、「住みにくさ」を感じられていると思われます。

■豊前市の住み心地について



豊前市の現状として、災害に強いこと、治安が良いこと、自然環境が保たれていることに対する満足度は高いが、雇用の場の創出は喫緊の課題

豊前市の現状について尋ねた設問では、特に「災害に強い」、「治安が良い」、「自然環境が保たれている」の項目は、「満足」の割合が半数以上を占めた一方、「希望する働き場がある」、「観光が盛ん」、「商業が盛ん」の項目は「不満」の割合が半数以上を占めました。

「希望する働き場がある」については、今後のまちづくりを進めていく上でも「重要」の割合が9割以上と高く、重点的に取り組んでいく必要があることが伺えます。

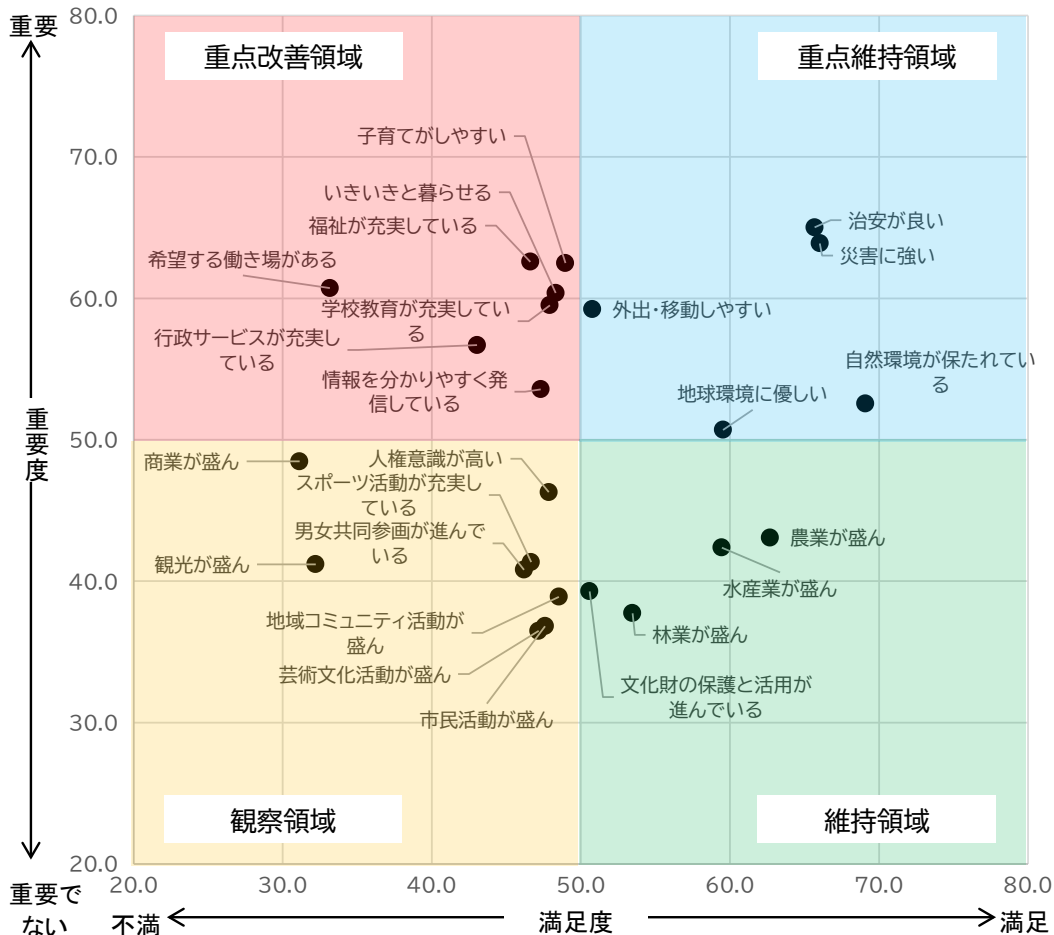
このことは、「あなたが市長だったら真っ先に取り組むことは」の設問に寄せられた意見においても、各年代とも「企業誘致の推進」や「雇用環境の充実」に関する意見が多く見受けられました。

■まちづくりに対する重要度・満足度について

市民のまちづくりに関する満足度の偏差値を横軸に、重要度の偏差値を縦軸にし、偏差値が50となるところを基準として象限を設定し、満足度と重要度の相関関係を示しています。

(満足度と重要度の相関関係における4象限について)

重点改善領域	施策の重要性の認識は高いが満足していない現状で有り、満足度を向上させるための 施策の改善・充実が最も望まれている施策
重点維持領域	施策の満足度は高いが重要性の認識も高いため、満足度を低下させないで効率化を図る必要がある施策
観察領域	施策の満足度は低く重要性の認識も低いため、今後の重要度の変化を見極めながら満足度を向上させるための改善・見直しを図る必要がある施策
維持領域	施策の重要性の認識は低いが満足している現状であり、現状維持しながら必要以上の事業を実施していないか検討する必要がある施策



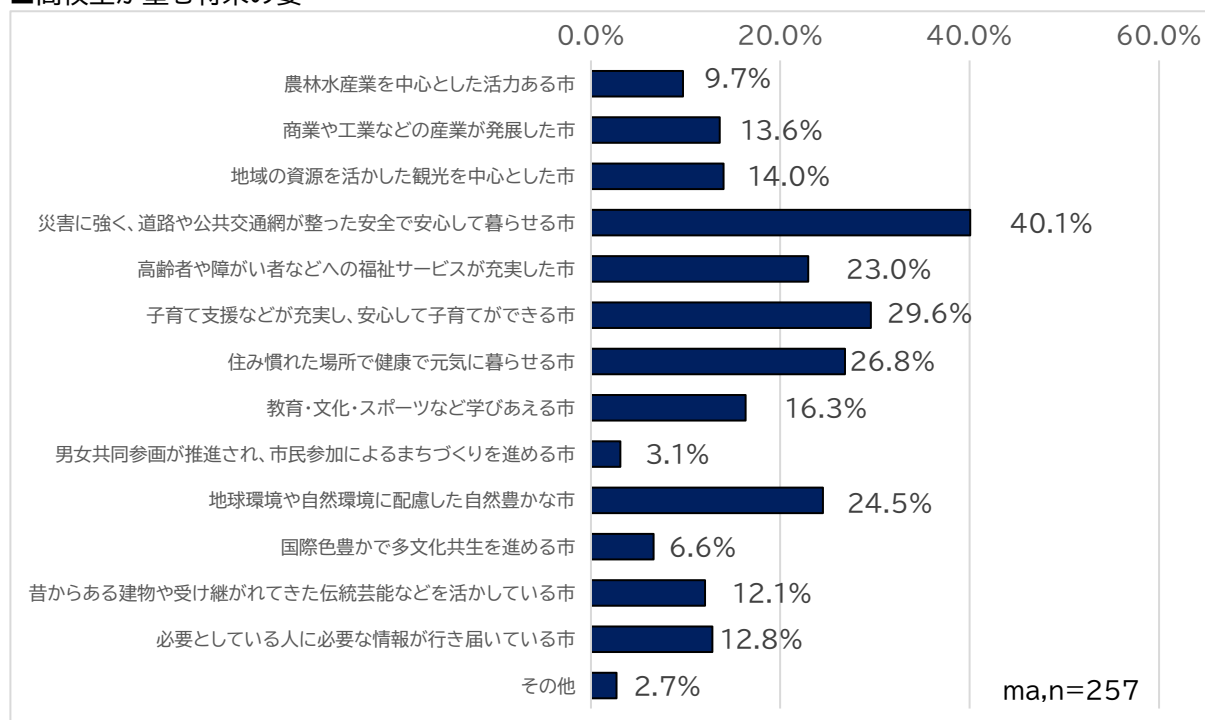
高校生アンケート調査結果の概要

高校生が望む将来の姿の上位3位は、「安全で安心して暮らせる」、「安心して子育て支援ができる」、「健康で元気に暮らせる」

これらの結果は、市内居住者と市外居住者との違いはなく共通していました。

将来像を実現した場合に豊前市に住みたいかを尋ねたところ、将来像と居住意向の間に強い関係性は見られませんでした。ただし、「住みたい」と「住みたくなはない」の割合を見ると、各項目とも「住みたい」が上回っていました。一方で「どちらでもない」の割合が3～5割を占めていることも踏まえると、回答者の多くが市外居住者であることや、就学・就職に伴い一度は市外、地域外に出る状況があることがその要因として考えられます。

■高校生が望む将来の姿



認知度・来訪意向調査

市内の主要な観光資源について、全体的に認知度、来訪・体験意向が低く、更なる磨き上げが必要

この調査は、交流人口や関係人口の候補である市外居住者の豊前市の各地域資源に対する認知度・来訪意向、来訪者の市内来訪の実態を把握することなどを目的に実施しました。

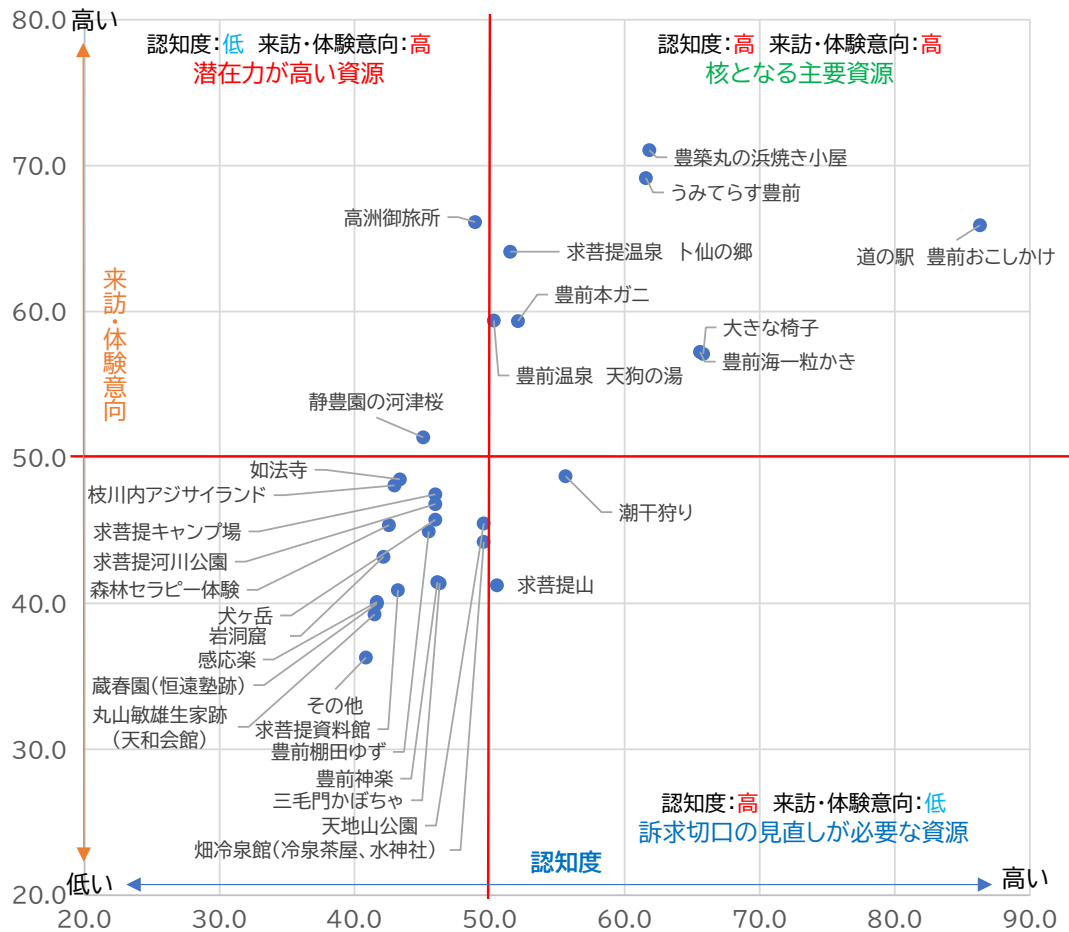
市内の主要な観光資源について認知度・来訪意向を尋ねたところ、認知度も高く、来訪・体験意向も高い資源としては、「道の駅豊前おこしかけ」や「うみてらす豊前」、「豊築丸の浜焼き小屋」といった物産・飲食施設、「豊前海一粒かき」や「豊前本ガニ」といった食べ物、「求菩提温泉ト仙の郷」や「豊前温泉天狗の湯」といった温泉施設、「大きな椅子」といったインスタ映えスポットが挙がりました。

また、認知度は低いが、来訪・体験意向が高い資源としては、「高洲御旅所」や「静豊園の河津桜」が挙がりました。

それ以外の資源については、認知度、来訪・体験意向ともに低い結果であった。まずはプロモーションを強化し、認知度を高めていくことが求められます。

■市内の主要な観光資源に対する認知度・来訪・体験意向

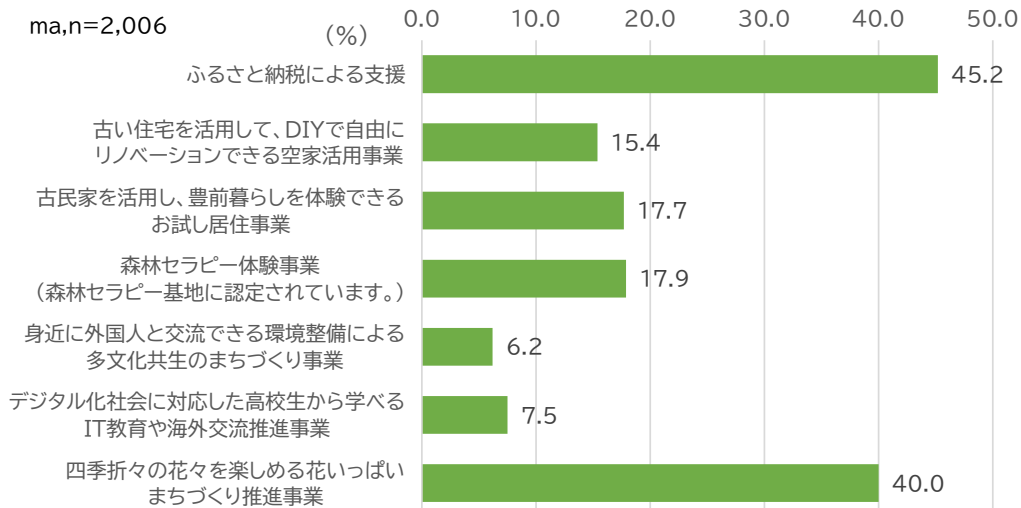
認知度の偏差値を横軸、来訪・体験意向の偏差値を縦軸にとり、市内の各資源の相関関係をみると、概ね認知度の高い資源は、体験・来訪意向も高くなる傾向にある。



ふるさと納税による支援のほか、四季折々の花々を楽しめる花いっぱい のまちづくり推進事業への関心が高い

豊前市のまちづくりに多くの方に関わっていただくために、どのような事業に参加してみたいか、あるいは応援したいと思うかを尋ねたところ、「ふるさと納税による支援」と「四季折々の花々を楽しめる花いっぱいまちづくり推進事業」が4割以上を占め、他の項目と比べて高い割合でした。

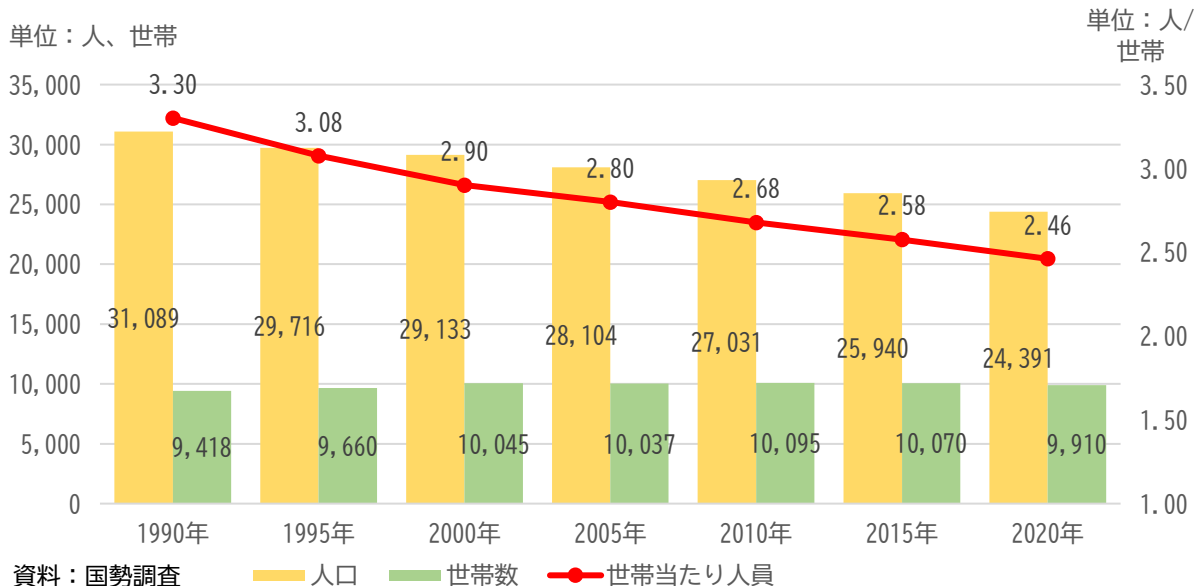
■今後の取組案に関する参画意向



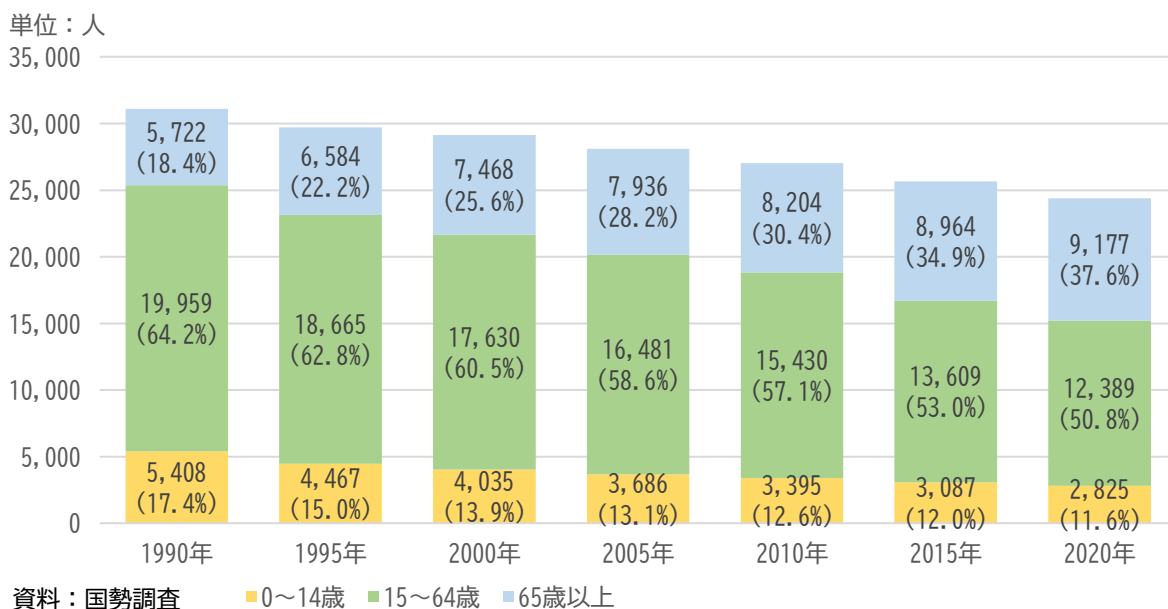
統計資料の整理

各種アンケート調査に加えて、国勢調査など各種統計資料の整理を行っています。主なものについて、紹介します。

人口・世帯数ともに減少傾向が続く

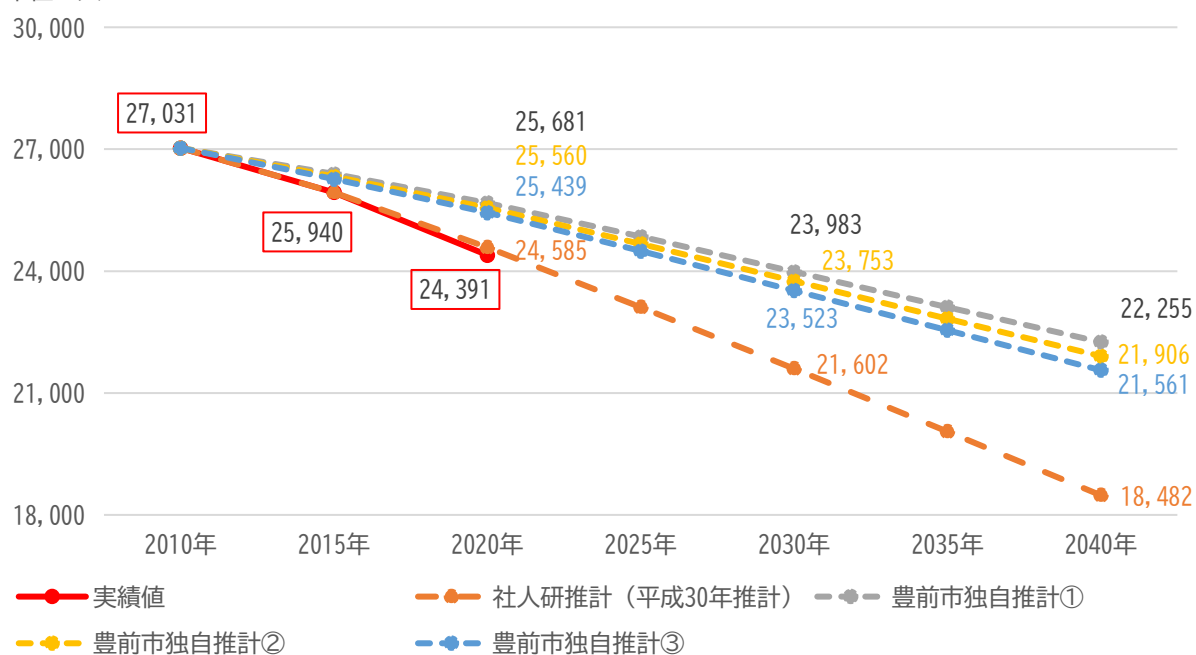


少子高齢化の傾向が続く



人口減少が予測よりも早く進んでいる

単位：人



資料：豊前市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年12月）

今年度の計画策定に向けて検討を進めていきます

豊前市では、第6次総合計画の策定に向けて、有識者の方で構成する総合計画策定審議会、市役所職員で構成する庁内策定委員会などを通じて、各種調査結果や、これまでの取組の成果と課題などを踏まえ検討を進めていきます。

第6次総合計画策定のポイント

- 人口減少を前提とした計画づくり
第6次総合計画では、「令和22（2040）年の人口20,000人」を前提とした計画とします。
- ウィズコロナの視点での計画づくり
新型コロナウイルス感染症については、今しばらくの間は、感染の拡大と抑制を繰り返すという認識のもと、新しい生活様式の定着や、新たな日常に向けたデジタル化（オンライン化）の推進などにつながる計画とします。
- やることベースでの計画づくり
限られた財源と人材の中、これまで以上に施策・事業の選択と集中を進め、計画期間中に「やること」を基本とした計画とします。
- 市民協働を推進する計画づくり
分かりやすい内容や表現につとめ広く市民の理解を促すとともに、市民協働の取り組みによるまちづくりを推進するための施策・事業を盛り込んだ計画とします。
- 各種計画との整合性を図る計画づくり
「豊前市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「豊前市第4次行財政改革推進プラン」をはじめ、各分野の個別計画との整合性を図った計画とします。

予定では、今年の12月頃に素案をまとめ、市民のみなさんからご意見をいただけるパブリック・コメントを実施する予定です。

策定の経過については、この「豊前市総合計画ニュース」を通じて適宜、ご紹介していきます。

発行：豊前市役所 総合政策課 企画広報係 TEL：0979-82-1123 Fax：0979-83-2560